

以森伝心

理事長 柏原康夫筆

No.

43

京都の森を守り育てる運動に参加しませんか

巻頭特集

崇高な美しさを 引き立たせる

——檜皮を採取する森と技を守る

■京都の森の仲間たち 安場町杉連

■企業参加の森林づくり

■豊かな森を次世代へ 森の出前授業



崇高な美しさを 引き立たせる 檜皮を採取する森と技を守る —— 有限会社 宮川屋根工業

京都を代表する名所の一つ、清水寺。2008 年から始まった「平成の大修理」もいよいよ最終段階に入り、今年 8 月、本堂の屋根工事のうち、檜皮葺の葺き替え作業が完了した。

この檜皮葺については、1967 年（昭和 42 年）に行われた前回の修理で、長さ 75cm の標準的な檜皮を使用する形に改められていたが、今回の修理では江戸時代の古文書に記された仕様に基づいて、長さ 96cm という特殊な檜皮を使用する形に復することとなった。このため、約 10 年をかけて、全国から約 100t に及ぶ檜皮が集められた。

伝統的建造物の屋根葺材の一つである檜皮は、どのようにして生産されるのか。今回の葺き替え工事に携わった宮川屋根工業で話を伺った。

最も格式の高い檜皮葺

清水寺はじめ多くの文化財建造物に見られる檜皮葺^{ひわだぶき}は、屋根葺手法の一つでヒノキの樹皮を用いて施工。軒先の部分から、檜皮を 4 分（1.2 cm）ずつずらして葺き重ね、竹釘で留めながら順次、上の方へと葺き上げていく。

「檜皮葺は、千数百年の長い伝統技術に裏打ちされて日本独自に発達を遂げた屋根葺技術で、屋根葺工法の中で最も格式の高い技法です。軒先を厚く見せる美しい曲線は、見る人に高級感と優美さを感じさせてくれます」

清水寺以外にも北野天満宮や京都御所など数々の国宝や重要文化財の建造物を修復してきた宮川義史社長^{よしふみ}に、まずは檜皮葺の概要を教えていただいた。

檜皮葺が本格的に使われるようになったのは飛鳥時代（593 ～ 709）で、中国の碁盤目割り都市制度を取り入れた藤原京の造営に多量の木材が使われ、その製

材過程で多量に排出された派生材としての檜皮を上手に活用しようとして、上級建築にも檜皮で屋根を葺く技法が生まれたと考えられている。

平安時代には広く普及していたが、現在のように非常に繊細で優美なものではなく、檜皮を縄や黒葛などで縫い付けて屋根に葺き、要所に押縁を釘で打ち付けて留めた、ラフな質感のものだったようだ。しかし、鎌倉時代の建物には竹釘を細かく打った痕があることから、美しい曲線を持った優美な屋根を造ろうと、平安時代にいろいろな工夫を重ねたなかで竹釘が考え出され、葺き方も細くなったと推測される。そして鎌倉時代には、現在の檜皮葺の技法がほぼ確立し、良質な檜皮を送り出す材料の産地化も進んだと考えられているそうだ。

文化財を維持する檜皮

「国宝を含め重要文化財に指定されている建造物のうち、檜皮葺は、平成 19 年には全国で 790 棟ほどありましたが、現在では 820 棟ほどとなって増えてますが、未指定建造物は減少していく一方です。減少していく原因は一概には言えませんが、檜皮葺が高いものになってしまったため、持ちの変わらない安価な銅板葺に変わったりするケースが多いと思います」

檜皮の供給量が不十分になってしまった理由として、ヒノキの大径木の減少、檜皮を採取する原皮師^{もとかわし}が少なくなってしまったこと、檜皮採取を認めてくれる森林所有者が少ないこと、などを指摘する宮川さん。宮川屋根工業でも以前は原皮師から檜皮を仕入れていたが、20 年ほど前からは社員が山に入り檜皮を調達



する体制づくりに着手し始めた。ひとつは、檜皮採取を認めてくれる森林所有者の確保。樹齢 100 年以上のヒノキ林を持つ山主さんを紹介してもらい、檜皮採取が生立木の成長や材質に悪影響を及ぼさないことを説明し理解を得る作業。もうひとつは、原皮師を目指す社員を探すこと。採取の工程から関わることで檜皮へ

の理解が深まり、葺き作業にも奥行きが生まれてくることを、毎年、新入社員を迎えるたびに説明するのだ。

「社員たちは本来、屋根葺きがやりたくて入ってきていますから、檜皮採取に軸足を置こうという社員はなかなか現れませんでしたね」

採取できる森林の確保が順調な一方で原皮師を目指す社員が現れないでいるなか、救世主的な存在となったのが森山 淳希^{じゅん き}さんであった。

「他の社員と同様、入社時に檜皮採取の話を持ち掛けたところ、彼は強く興味を持ってくれました。今では、工期の都合上、現場の屋根葺きを手伝うよう指示しても、あれこれ理由をつけては山へ行こうとするほどです（笑）」

檜皮採取は、採取する立木への負担を考慮して、7 月下旬から翌年 4 月下旬にかけての、栄養や水分の流動が少ない期間におこなう。この約 9 か月間、森山さんは基本的には檜皮採取に専念することになる。

「山のなかにはいるとほんとうに落ち着きます。檜皮を剥ぐ作業は、基本を守って単調にこなしていく要素も大きいですが、枝中^{えだなか}など癖のある個所ではそれぞれに適した対応が必要になります。誰にも邪魔されずに、きれいに剥いでいくことだけを考えながら木に向き合っているときは、ストレスを感じませんね」

平成 18 年に入社した森山さんは、公益財団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会（京都市東山区）が主催する「檜皮採取者（原皮師）養成研修事業（国庫補助事業）」に参加し全国あちこちの国有林を回って研修を受け、平成 19 年度第 9 期生として初級養成研修を修了し、原皮師として一步を踏み出した。

原皮師は、樹齢 100 年以上のヒノキの立木から檜皮を採取する。「立木から樹皮を採取する…」と聞くと、ふと、シカやクマによって樹皮を剥がされ立ち枯れるスギ・ヒノキを連想してしまう。しかし、原皮師は、古くから伝わる日本固有の特殊な方法で、ヒノキを枯らすことなく、繰り返し檜皮を採取するという。「樹皮をすべて剥ぎ取るのではなくて、内樹皮と外樹皮の間に木べらを差し込み、外樹皮だけを剥いでいく



森山淳希さん

のです。形成層表面である内樹皮を残すことでヒノキは成長を続けて新しい外樹皮を形成するので、10年ごとに檜皮を採取できます」

ちなみに、業界では内樹皮のことを甘肌もしくは甘皮と呼ぶ。立木から最初に剥がされた外樹皮は荒皮と呼ばれ、檜皮としては品質が悪く収量も少ないが、一度皮を剥いで8～10年くらいかけて新たに形成される皮は黒皮と呼ばれ品質も良く収量も多いそうだ。「伐採したヒノキから剥いだ皮は利用できないのか？」と疑問をぶつけると、森山さんの回答は「伐採したヒノキから剥ぎ取った檜皮は土場皮とばがわといいますが、乾燥により油脂分が少なくなり耐久性に劣るので、あまり良質とは言えません」だった。

製材過程で多量に排出された派生材であった檜皮を、屋根葺き用材に活用しようと思いつき、屋根葺き用材としての品質を高める工夫を重ねた結果、立木から外樹皮だけを剥ぎ取り高品質の檜皮を繰り返し採取する技術を確立させる——日本の伝統技術を支えて

きた先人たちの知恵と工夫には、ただただ驚かされるばかりだ。

「私たちの仕事は、伝統的な工法で、いかに美しく仕上げるか、どれだけ耐久年数を引き上げられるかを追い求めていくもの。一つひとつ、その時その時、常にベストを尽くして施主さんに喜んでいただくことが、よい仕事だと考えています」

経営者である宮川さんにとって伝統工法に携わるとは、技術の伝承だけではなく、原皮師の減少、檜皮を採取する森やヒノキの減少、さらには職人たちの雇用形態の変化といった時代の変遷がもたらす課題を一つずつ解決していくことも重要な役割となる。人工知能（AI）に象徴される技術革新や働き方改革など、新しい時代の波が次から次へと押し寄せてくるこれからの時代、屋根葺きの仕事を取り巻く環境がどれだけ変化しようとも、職人たちが「昔ながらの用材で」「昔ながらの工法で」仕事に専念できる環境を維持していくことが、伝統を守ることなのかもしれない。

檜皮採取



根元に「木べら」を入れて、皮を剥ぎ始める



順次、上部へと剥がしていく

会社概要

有限会社 宮川屋根工業
社寺や茶席の屋根の檜皮葺、屋根板葺、銅板葺
1712年（正徳2年）8月創業
京都府京都市中京区麩屋町通竹屋町上る舟屋町 415 番地



手とヘラを使って剥き上げる



全周を剥き上げる



「ぶり縄」を使って木に登り、さらに上部へと剥がしていく



3～4メートルの高さまで剥き上げ、ある程度の長さで切り落とす



切り落とした箇所から、さらに上部へと剥がしていく



剥いだ檜皮を束ねて所定の長さで裁断



結束した檜皮（丸皮）



雪山檜皮剥いだ跡



安場町杣連 （綾部市）

京都府の中央北寄りに位置し、由良川流域の豊かな自然を擁する綾部市。その西南部に位置する里山豊かな安場町で、地域の山を整備をされている安場町杣連の吉本さんにお話を伺いました。

受け継がれてきた「御山」の 魅力を後世に

山が好きでかつて森林組合で働いていたのですが、第二子誕生を期に独立し、地元安場町の森林整備を山主様からの依頼で始めました。放置された山林を目の当たりにし、代々受け継がれてきた御山の持つ素晴らしい魅力と、これまでの経験や道具を宝の持ち腐れにはしないと考えたのです。自分の山を整備したい思いはそれぞれあれど、現在山にお金を投資してまで自分の山を整備したいという人は少ないです。結果放置されてゆく山々を目の当たりにし、助成金や補助金制度を調べる中、協会の「森林づくり基金活用事業」の存在を知り、4年前から活動を始めることになりました。

山へ入る人が増え、 森に光が差し込むように

昔は、週末は親と共に子も地起こし（地あげ）に植林、下刈りに枝打ちまで、一家総出で山に入り働いていた姿がこの安場でも見られていたそうですが、現在は山へ入る人間はほとんど居らず、若い人たちが里を離れ町へ行ったまま戻ってこない事も多いです。かつて「山に良材、里に人材」と言われていた姿から、「山に不良材、里は不在」という寂しい姿になってきているのも否めません。

人間が森を疎遠な存在としがちな現代ですが、一人でも山へ入る人間が増え、暗い森に一筋の光が差し込むよう

願ってやみません。足繁く山へ身を心を運ぶことにより、敬遠されていた森も、素晴らしい姿を我々に魅せてくれると考えています。それを私は「懐かしい未来」と呼んでいます。

森と人が語り合う 「懐かしい未来」へ

山主さんが山から材を下ろしていた木馬道の跡、境界に植えられた或いは残された母樹の姿、それらに触れ、「ああ、かつてこの御山に人の声が響き、掛け声と共に協働していた景色があったのだなあ」、現代の我々が通っている道に見つけた古株を見て、「ああ、ここにも昔の山師が足繁く森に通った跡があるな その人たちは今頃お天とさんで何を思っているだろう？」と想いを馳せることがあります。

それが、森にとっても、人間にとっても「懐かしい未来」なのだと思います。

「生態系の一員として」考え 森を次世代へ

「未来」は未だ見た事もない景色というイメージがありますが、それが「懐かしい景色」、「かつて見たことのある森と人が語り合う風景」へと変わってくれたら、と、そう思って日々山に入り続けています。それには人間本位にならず、森の声を聴き、野生動物や野鳥の声を聴き、果ては、大地の下に息づく担子菌門の声にも耳を傾けられるようになってこそだと考えています。生態系の一員として何が出来るかを考え、「人間よがり」にならず森を次世代へ引き継ぐこと、この地球は次世代からの預かりものなのだという想いを念頭に森づくりに励むことが、今生きる我々が次の世代のために出来ることなのではないかと思っています。

団体プロフィール

安場町杣連

設立：平成28年
活動地：綾部市安場町
会員数：4名

活動概要：

森林整備、学生や都市住民のボランティア受け入れなど



企業参加の森林づくり 2019 春

府内各地で地域と連携して森林保全の活動に取り組んでおられる企業・団体の活動について、この春行われた活動をピックアップしてご紹介します。

(協会に送付いただいた活動報告より抜粋して掲載しています)

4月 5日(金)	三洋化成工業株式会社	和束町
4月 6日(土)	株式会社島津製作所	南丹市
4月 6日(土)	グンゼ株式会社	綾部市
4月 13日(土)	キョーラク百年の森基金事業	京都市
4月 15日(月)	京セラ株式会社	京田辺市
4月 20日(土)	エスベック株式会社	福知山市
4月 20日(土)	株式会社村田製作所	亀岡市
4月 27日(土)	株式会社島津製作所	南丹市
4月 27日(土)	KDDI 株式会社関西総支社	大山崎町
5月 5日(日)	三洋化成工業株式会社	和束町
5月 11日(土)	キョーラク百年の森基金事業	京都市
5月 11日(土)	株式会社京都銀行	京都市
5月 18日(土)	京セラ株式会社	京田辺市
5月 18日(土)	株式会社京都銀行	京都市
5月 18日(土)	株式会社ドコモCS関西	宇治市
5月 18日(土)	株式会社村田製作所	亀岡市
5月 19日(日)	株式会社スリーエス	福知山市
5月 19日(日)	高砂熱学工業株式会社	南丹市
5月 22日(水)	オムロン株式会社京都事業所	京都市
5月 25日(土)	日新電機グループ社会貢献基金	南丹市
5月 25日(土)	SCREEN ホールディングス	亀岡市
5月 29日(水)	オムロン株式会社京都事業所	京都市
6月 1日(土)	株式会社京都銀行	京都市
6月 9日(日)	キョーラク百年の森基金事業	亀岡市
6月 12日(木)	オムロン株式会社京都事業所	京都市
6月 22日(土)	株式会社虎屋京都工場	南丹市
6月 26日(水)	株式会社平和堂	和束町
7月 21日(日)	キョーラク百年の森基金事業	京丹波町



グンゼ株式会社



株式会社スリーエス



KDDI 株式会社関西総支社



エスベック株式会社



株式会社 SCREEN ホールディングス



林内の階段整備



大きな倒木の根と



森の中の沢で生きものを発見



豊かな森を次世代へ

森の出前授業 活動報告

「緑の募金」の取り組みの一環として、府内の幼稚園・保育園・小中学校を対象とする森林環境教育に関する出前授業などを実施しています。2019 年度の事業の様子をお伝えします。

5月14日 京極小学校

3 年生の皆さん 29 人が、市民グループ フィールドソサイエティーの指導で、大文字山で「森の出前授業」を行いました。

山に入る前に「法然院森のセンター」でスライドを見ながら森の生きもののお話を聞いたあと、大文字山登山へ。皆さん、植物を観察しながら元気に頂上を目指しました。



5月24日 男山東中学校

2 年生の皆さん 32 人が京都市東山区の京都市都市緑化協会内で当協会理事で森本幸裕 京都大学名誉教授の講義を聴講。SDG s (Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)) の中における「自然資本」の役割や、生物多様性保全の重要性について、また京都の伝統文化の中で活用されてきた植物についての話を聞きました。続いては、所内で保護栽培されている希少種の見学。フジバカマやヒオウギ、フタバアオイなど、植物の名前や生態についての話を聞きながら、熱心に観察されました。



6月3日 北野幼稚園

年長児の皆さん 25 人が、京都森林インストラクター会の指導で自然観察や葉っぱのこすり出し等の体験をしていただきました。

自然観察では「毒を持ったり嫌な匂いを出して動物に食べられないように守っているんだね」といった感想や、こすり出しでは、「同じ色なのに色々な種類や模様があった面白い」といった感想をいただきました。



6月21日 安朱小学校

3 年生の皆さん 36 人が、京都森林インストラクター会の指導で、安祥寺山で自然観察会を実施しました。生徒の皆さんは、植物や木の名前、動物の爪あとなどたくさんのことを教えてもらい、初めて見る植物もあり、とても興味津々な様子でした。自分たちが住んでいる町の近くに、たくさんの自然があるということに驚いていました。



この「森の出前授業」は、皆様からお寄せいただいた「緑の募金」を財源として実施しています。当協会の「森の人材バンク」には、森林体験活動の指導ができる人材を登録しており、ご希望の学校にご紹介しています。実施を希望される場合は、事務局（巻末参照）までお問い合わせください。

事務局からのお知らせ—活動報告—



令和元年 6月9日 亀岡市

キョーラク百年の森基金事業 「子ども森づくり・体験学習会」開催

キョーラク株式会社が創立100周年を記念して「森林の利用保全に関する協定」を締結した「キョーラク百年の森」で、地元で緑の少年団活動を実施されているボーイスカウト、ガールスカウト23名を含む約30名の皆さんに、植樹や森林観察などを体験いただきました。



令和元年 5月18日 京都市伏見区

国際ソロプチミスト京都 「子ども森づくり・体験学習会」開催

稻荷山の森と人との関わりや歴史について、伏見神寶神社で中田宮司からお話を伺ったあと、森林インストラクターと一緒に森林観察をしながら山歩き。広場では森でのゲームも楽しみました。



令和元年6月30日、7月6日 舞鶴市、京都市北区

森林・山村多面的機能発揮対策 活動組織現地見学会・安全講習会 開催

林野庁の同事業に取り組まれている活動組織の皆さんを対象に、安全講習と現地交流会を実施。安全上の注意や機械のメンテナンスの講習に続いて、実際に活動されているフィールドを見学しました。



令和元年 6月22日 南丹市

『京の七夕』放置竹林整備活動行事を開催

放置された竹林の拡大が問題となっている中、竹を京都の夏の風物詩『京の七夕』で有効活用することで地域の環境保全を図ろうと、企業や学生のボランティアらが約70本の竹の伐採と搬出を行いました。



緑の募金ご協力のお願い

緑の募金は、地域や学校の緑化活動や未来を担う子どもたちの森林環境教育などに使われています。皆様のご協力をお願いいたします。



●郵便振替や銀行振込で

どこでも、誰でも募金ができます。

1. 郵便振替

00990-1-83253

公益社団法人 京都モデルフォレスト協会

2. 銀行振込 京都銀行府庁出張所

普通 3154305

公益社団法人 京都モデルフォレスト協会

理事長 柏原 康夫



平成31年度春募金実績

10,571,423円

ご協力ありがとうございました。

●商品購入や募金箱で

「緑の募金付き商品」を購入したり、各所に設置された「緑の募金箱」に直接募金することで、ご協力いただけます。「緑の募金付き商品」開発・販売や募金箱の設置等、様々な形でご協力いただける店舗様、事務所様も募集しています。

会員PR欄

SUNTORY

OMRON

発行:公益社団法人京都モデルフォレスト協会
〒604-8424 京都市中京区西ノ京樋ノ口町123 京都府林業会館3階

TEL&FAX 075-823-0170 E-mail kyomori@kyoto-modelforest.jp

URL https://www.kyoto-modelforest.jp

2019年秋発行

facebook https://www.facebook.com/KyotoModelForest

入会案内資料をご希望の方は
ご連絡ください。